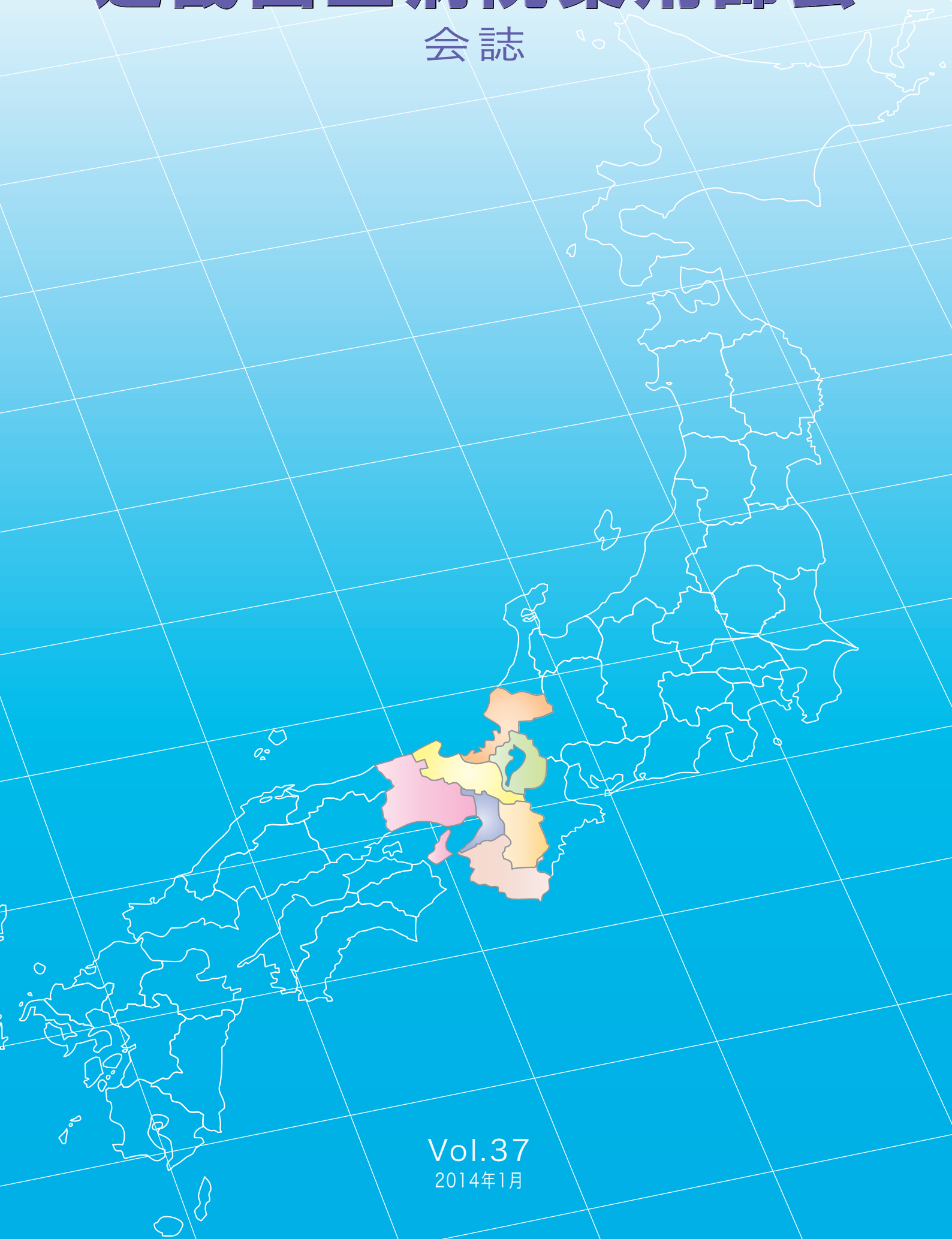


近畿国立病院薬剤師会

会誌



Vol.37
2014年1月

目 次

会長就任のご挨拶.....	2
大阪南医療センター	山崎 邦夫
副会長就任のご挨拶.....	3
奈良医療センター	本田 芳久
南和歌山医療センター	石塚 正行
薬剤科紹介.....	6
南京都病院	早川 直樹
平成 26 年度近畿国立病院薬剤師会総会報告.....	8
大阪南医療センター	橋 憲
平成 26 年度近畿国立病院薬剤師会特別講演会報告.....	11
大阪南医療センター	高口 仁宏
第 18 回日本緩和医療学会学術大会に参加して.....	12
姫路医療センター	平岡 暖子
第 67 回国立病院総合医学会に参加して.....	13
兵庫中央病院	竹原 健次
平成 25 年度 初級者臨床研究コーディネーター研修を受講して.....	14
姫路医療センター	小西 敦子
第 40 回日本小児臨床薬理学会学術集会に参加して.....	15
神戸医療センター	木村 麻子
地区会報告.....	16
姫路医療センター	水谷 伸一
病院薬剤師になって.....	17
姫路医療センター	松本 健吾
神戸医療センター	加藤 淳子
兵庫中央病院	福井 千恵
兵庫青野原病院	柴崎 憲行
趣味のページ ～世界遺産にお邪魔します～.....	21
近畿中央胸部疾患センター	水津 智樹
編集後記.....	22

会長就任のご挨拶

近畿国立病院薬剤師会 会長
大阪南医療センター 山崎邦夫

近畿国立病院薬剤師会は、昭和 36 年より永きにわたり運営されてきました「近畿国立病院・療養所並びに国立循環器病センター薬学集談会」と「近畿国立病院薬剤部科長協議会」を統合し、平成 16 年 1 月新たな会として発足しました。

今年で 11 年目を迎えますが、今般、北村前会長の後任として会長を引き受けることになり責任の重さをひしひしと感じています。

私自身はこれまで本会の前身である薬学集談会の時代より地区代表・会計・総務・広報担当理事・顧問等々思い入れをもって様々な形で会の運営に関わってきましたが、今般の会長選の立候補には、躊躇いと大きな不安がありました。また、北村前会長にはもう一期お願いしたいという甘えもありました。しかしながら、次世代への橋渡しが喫急の課題であること、今まで薬剤師会の運営に深く関わってこられた先生方の心強い後押し、多くの先生方の信任を頂き、覚悟を決めた次第です。

昨年は、北村前会長中心に次世代へ繋ぐ礎の年として、役員の若返りを意識し理事の他にサブメンバーとして若い先生方にも理事会に出席して頂きました。また、今後の本薬剤師会を支えていくことになる 40 歳及び 30 歳台の会員を中心とした「平成 25 年度近畿国立病院薬剤師会 今後の薬剤師会を考える WG」が立ち上げられ、河合座長（大阪医療センター）中心に今後の薬剤師会のあり方等について検討して頂きました。議論の結果については、意見書として理事会に提出頂いています（平成 25 年第 4 回理事会資料に掲載）。意見書の中には『薬剤師会は事業を通じて会員間の交流や 日常業務における情報交換や相談の場とし、会員の積極的な参加によって会員の意見を反映できる運営・維持をしていきたい。そのためには誰もが参加しやすい風通しの良い環境が必要である』と述べられています。私も同感ですし、今までの薬剤師会の考えと齟齬がないものと思っています。ただし、問題点についても言及頂いており、「今後の薬剤師会を考える WG」については今年度も継続して議論頂く事としております。各地区会でも活発に議論頂き忌憚のない意見だしをお願いします。そして、この薬剤師会を活性化し発展させ、揺るぎない組織に育てていきましょう。

今年度は、役員の若返りとともに新たな事業も計画しております。当会が益々発展するよう努力させて頂きたいと考えておりますので、会員皆様のご協力とご支援を賜りますようお願い申し上げます

最後になりましたが、北村前会長はじめ当会の運営にご尽力頂いた役員の皆様に深謝申し上げますとともに、今後も引き続きご支援・ご協力下さるようお願いし、会長就任のあいさつといたします。

平成 26 年 1 月

副会長就任のご挨拶
～リーダーとして求められもの～

近畿国立病院薬剤師会 副会長
奈良医療センター 本田 芳久

この度、山崎新会長のもと、副会長をさせて頂くことになりました。皆様のお力添えを頂いて、活気のある近畿国立病院薬剤師会にしていければと思っておりますので、ご支援とご協力の程、宜しく願い申し上げます。

さて、自分自身と近畿国立病院薬剤師会との関わりを振り返りますと、兵庫中央病院で初めて薬務主任を拝命し、薬学集談会の薬品管理委員会の小委員長を務めさせて頂いて以来、常に、理事会に席を置かせて頂いていたような気がします。それまでは、どちらかという薬剤師会のような集まりには消極的で、今思えば、自己本位、自分勝手であったと思います。しかしながら、今、このような立場から皆様にご挨拶させて頂けるようになったのも、近畿国立病院薬剤師会で「組織」「リーダーシップ」というものを学ばせて頂いた事が非常に大きな要因であることは間違いありません。そこで、今回、副会長就任を機に、私自身も含めて、会員の皆様とともに、もう一度「リーダーとは」を考える機会をいただければと思い、佐々木常夫氏（報道ステーション）のリーダー論を少し交えて紹介させて頂きたいと思っております。

佐々木氏によると、「リーダーシップとは、権力者やトップにのみ存在するものではなく、私たち一人一人がその持ち場において発揮するものである」と言っています。また、「リーダーとは人々を率い、導くものであるが、力づくで率いるものではない。あくまでも人々が自主的に、喜んでその人に付き従おうとしなければ本物ではない」とも言っています。さて、周りの人を見渡したとき、自主的に、喜んでその人に付き従おうと思える人は何人いるでしょうか。そして自分は...

では、リーダーシップを持っている人はどのような人でしょうか。佐々木氏によると、「リーダーシップは、生来に由来するものではない、「生き方」によって生まれ磨かれるものであり、さまざまな苦難にもまれ、それを乗り越えていく過程で培われるものである。」と言っています。また、「リーダーは、「どうやるか」ではなく、「どうあるか」という問題であり、リーダーシップとは「生き方」そのものであるとしか言いようのないものである。」とも言っています。つまり、リーダーシップの核心は「志」にあり、志に献身する姿が周りの人の共感を呼び、その人のたちが力を貸したい、力になりたいと思った時にはじめてリーダーシップが生まれると言うのです。「志」という言葉は、「ビジョン」という言葉で表すときもあります。もし、自分に人がついてこないなら、リーダーシップが無いと感じているのなら、「志」がないのか、自分自身が立てた「志」に真摯に向き合おうとはしていないために、他人の共感を生んでいないからかも知れません。

しかしながら、組織とは怖いもので、リーダーシップが無くても、相対的評価で人より少し勝っていることで役職に就く場合があります。通常は、ここでそのような人は気がつ

いてリーダーシップの取得に奔走するのですが、なかには、何を勘違いしているのか自分は絶対的に優秀だから、この地位にいるのだと思い込む人もいます。こういった上司と遭遇したら災難が降りかかるわけです。リーダーには、部下を育て部下を使って仕事をするための人事権をはじめとする「武器」が手渡されているからです。中坊公平さんの「正面の理、側面の情、背面の恐怖」という言葉があるように、理を尽くして説得し、心情に理解を示しても動かざる時は「わかっているな...」ということになるのです。現実組織を動かすときには「武器」が必要ですが、この武器は諸刃の剣です。これに頼りすぎると、リーダーはその本来の力を失ってしまいます。上司という存在は、武器を使わずとも部下に威圧感を与えてしまっているのです。武器だけに頼って部下に仕事をさせることがリーダーとして望まれるべき姿ではありません。なぜなら、そこには自発的な「やる気」と「達成感」と「連帯感（信頼感）」がないからです。仕事の成果を左右するのは能力ではなく熱意だと佐々木氏は言っています。また、熱意を生み出すものは、一緒に働く人たちとの信頼関係であり、「その人と一緒に仕事をするのが楽しい」という気持ちだそうです。

皆さんは、周りの人たちから信頼を得て一緒に仕事をするのが楽しいと思われていますか？

私自身、副会長就任のご挨拶をさせて頂くに当たり、見失いそうになっていた「私の志」をもう一度見つめ直す事が出来たように思います。



副会長就任のご挨拶

近畿国立病院薬剤師会 副会長
南和歌山医療センター 石塚 正行

新しい年を迎えられ、会員の皆様は個々に目標を立てられ、新たな気持ちでスタートされていることと思います。

2014年は午年(うまどし)で、馬にまつわる故事ことわざは数多くあります。

その中に「馬には乗ってみよ、人には添うてみよ」ということわざがあります。食わず嫌いをしたり、用心ばかりしていたのでは物事は進まない、馬の良し悪しは、ただ見ただけではわからないもので、乗ってみて初めてわかる。人も見かけだけではどういう人物かわからないもので、一緒に仕事をして初めて良くわかるといった意味だそうです。

当薬剤師会は会員数 300 人を超える大きな組織に成長し、また、薬剤科業務におきましても着実に前進し、薬剤師に求められていることも見えてきました。このような中で、1月より山崎会長の下、新しい体制での船出となりました。しかし、以前から行ってきた積極的な薬剤業務の取り組み、新人教育をはじめ専門薬剤師、認定薬剤師の育成、医療安全の確保などの支援については勿論のこと、団塊の世代問題は世間一般的には過去のことですが、近畿国立病院薬剤師会においてはこれからがピークを迎えます。この団塊の世代の定年退職問題など早急に対応しなければならない課題もあり、決して平穏な航海ではないことが予想されます。無事に目的地に到着するためには会員の先生方の力が不可欠と考えています。昨年11月号の提言(大切なもの)にも書かせていただきましたが、病棟薬剤業務実施加算も認められ病院薬剤師にとって追い風が吹いており、医療人として活躍できる世界が広がりました。今後は、その結果が問われる重要な時期を迎えることになるため、薬剤師一人一人が自分の役割を明確に把握し、チーム一丸となって積極的に行動していく必要があると考えます。

前述のことわざの「...みよ」は「試みよ」、試してみよということです。何事も、自分で見て触れて感じて頂きたいと思います。失敗することは誰しも好まないと思いますが、それでも何もしないよりは何か得るものがあるのではないかと思います。新しいことへのチャレンジ、失敗することも成功することも"経験"しなければ感じることはできません。是非、「試みて」いただきたいと思います。

馬の視野は 350 度と広く、真後ろ以外はほぼ見渡すことができるそうですが、私自身も馬のようにしっかりと前を見て、横を見て、時には後ろも見ながら着実に進んでいきたいと思っております。

副会長という大任を仰せつかり、その責任の重さを痛感しております。微力ではございますが、会長の補佐に努め、薬剤師会のために少しでも貢献できればと考えておりますので、皆様のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、会員の皆様の益々のご健康とご活躍を祈念しまして副会長就任の挨拶とさせていただきます。

薬剤科紹介



独立行政法人
国立病院機構

南京都病院

National Hospital Organization Minami Kyoto Hospital

【概況】

当院は、結核はもとより、非結核性呼吸器疾患(肺がん、呼吸不全、喘息、慢性気管支炎等)、重症心身障害、小児慢性疾患、神経・筋疾患、慢性肝疾患、脳卒中リハビリ並びに一般疾患の診断と治療を主体とした診療機能を持ち、専門性を生かした高度医療の充実を図っています。

2012年4月、新病棟の運用が開始されました。緑豊かな自然環境と相まって、真新しい5階建病棟は、ゆとりのある空間が確保されており、患者の療養環境として最適です。また同年8月に、電子カルテシステムが運用開始となり、治療に関する情報伝達が確実に速やかになりました。今後、診療機能の充実をめざし第2期工事として、診療棟、手術室の整備が行われる予定です。



「概況（私見）」

南京都病院は京都府南部、城陽市の南西部に位置しています。4万坪という広大な面積を有し、市街地から離れていることもあり、病院は豊かな自然環境に包まれております。

当院は地域医療を担うべく、近隣住民を対象とした一般診療を行っていますが、呼吸器科や神経内科、小児科においては、特色のある診療も併せて行われています。

さすが中心診療科というべき伝統の呼吸器科では、重症・多剤耐性結核治療を筆頭に、重度の喘息、COPDなど重症呼吸障害患者を中心に治療を行い、「睡眠時無呼吸専門外来」を設置するなどユニークな取り組みが行われています。

神経内科はパーキンソン病をはじめとする様々な神経難病の治療にあたっており、認知症の治療といった超高齢化社会のニーズに合致する診療が展開されています。

小児科では、重度のアレルギー疾患を持つ患児に対する専門外来が開設されています。アレルギーを持つ子供たちにも安心して予防接種を行う「専門的予防接種外来」があります。また、隣接する城陽支援学校と協働し、乳児から中学・高校生などの学齢期にいたる子供たちを、身体・精神の両面からフォローする体制が敷かれています。実際そのサポートぶりは感動してしまいます。「小児科の〇〇先生、全然電話つながらん...」「〇〇先生、今日は遠足の付添ですから院内にはおられません。」などということが時々あります。献身的

な医師の態度に頭が下がる思いです。そして子供たちは、小児科の先生が大好きなようです。

【薬剤科について】

現在、薬剤科は薬剤科長、副薬剤科長、調剤主任、治験管理主任および常勤薬剤師 2 名で構成されています。

重心病棟や神経・筋疾患病棟を抱えている関係で、単純な計数調剤はごくわずかです。

ほとんどの処方箋は、複数の散剤調剤、粉碎調剤、錠剤一包化調剤を要求しており、さらには、簡易懸濁法併用を考慮した分包など複雑な調剤業務を行っています。また、肺がん、消化器がんを中心に、抗がん剤調製業務をわずかではありますが、診療科の要求に十分対応して実施しています。また、薬学生長期実務実習は 1 期 1 名、年間 4 名を受け入れています。多彩な業務を経験することはできませんが、少人数ゆえに、現場の薬剤師に密着して 1 日を過ごすので、中央業務や臨床業務で濃密な実務実習を経験することができる体制となっています。

このような業務を行うなか、本年度、南京都病院薬剤科の第一目標は、あえてもう一度、病院薬剤師として基本業務である、より良質な薬学的サービスを 1 人でも多くの入院患者に提供するという単純なものです。薬剤科全員が一丸となって取り組んだ結果、第一目標はクリアできる目途がたちました。今後、当然のことながら病棟薬剤業務をできるだけ早期に実施することが目標となります。また、残念ながら現在は十分に行えていない、重心病棟、神経・筋難病病棟での薬学的サービス拡充も視野に入れながら、当院の理念である「安心・安全で良質な医療の提供」に薬剤科として貢献できるよう取り組んでまいります。

(文責 早川直樹)



平成 26 年度近畿国立病院薬剤師会総会報告

大阪南医療センター 橋 憲

平成 26 年度近畿国立病院薬剤師会総会が平成 26 年 1 月 11 日（土）KKR ホテル大阪にて開催された。

15 時、小林副会長の開会の辞により総会が開始となり、北村会長から挨拶、引き続いて山崎薬事専門職より挨拶を頂いた。続いて大阪医療センター赴任時の塩田賞受賞の功績により、関本先生（神戸医療センター）に北村会長より会長賞が授与された。

議長には近畿中央胸部疾患センター坂本副薬剤科長が選出され、25 年度事業報告、会計報告、会計監査報告があり、全て承認された。

今年度は北村会長の任期満了に伴う改選となったため、山崎新会長の挨拶を頂き、新役員が紹介された。続いて 26 年度事業計画案、予算案について審議され全て承認された。その後、部会紹介が行われ、最後に石塚新副会長の閉会の辞により無事、総会が終了した。

日時：平成 26 年 1 月 11 日（土）

場所：KKR ホテル大阪

担当施設：大阪南医療センター

出席者数：出席者 193 名、委任者 92 名

会則第 12 条に従い、会員過半数出席により総会が成立

司会：小林副会長（近畿中央胸部疾患センター 薬剤科長）

開会の辞：北村会長（京都医療センター 薬剤科長）

議長：坂本（近畿中央胸部疾患センター 副薬剤科長）

閉会の辞：石塚新副会長（南和歌山医療センター 薬剤科長）



報告および審議事項

I. 報告事項

(1) 平成 25 年度事業報告

①総務

平成 25 年度年間活動報告について山内総務担当理事（和歌山病院）より報告があった。

②広報

広報担当会議、会誌の発行、ホームページの運用とメンテナンス、会員名簿と委員会メーリングリストのメンテナンスについて廣畑広報担当理事（大阪医療センター）より報告があった。

③委員会報告

総会に先立ち開催された合同会議にて報告されたため省略された。

④地区会報告

各地区理事より活動報告があった。

- | | |
|--------------|--------------------|
| ・京都北部・福井地区 | 別府地区理事（あわら病院） |
| ・京都南部・滋賀地区 | 繁野地区理事（宇多野病院） |
| ・兵庫南部地区 | 水谷地区理事（姫路医療センター） |
| ・大阪北部・兵庫東部地区 | 平木地区理事（兵庫中央病院） |
| ・大阪南部地区 | 政道地区理事（大阪南医療センター） |
| ・奈良地区 | 松本地区理事（奈良医療センター） |
| ・和歌山地区 | 續木地区理事（南和歌山医療センター） |

⑤近畿国立病院薬剤部科長協議会

平成 25 年度事業について北村会長（京都医療センター）より中間報告があった。

(2) 平成 25 年度会計報告

上野経理担当理事（京都医療センター）より平成 25 年度会計報告があった。

(3) 平成 25 年度会計監査報告

本田監査役（奈良医療センター）より平成 25 年 12 月 20 日に平成 25 年度会計監査が実施され、適正かつ正確であるとの報告があった。

以上について審議の結果、賛成多数で承認された。

II. 新会長挨拶

新会長に選出された山崎大阪南医療センター薬剤科長より就任の挨拶があった。

(1) 役員紹介

任期満了に伴う役員改選があったため、山崎会長より新役員が紹介された。



III. 審議事項

(1) 監査役選出

監査役の任期満了に伴い、和田兵庫中央病院薬剤科長、砂金宇多野病院薬剤科長が推薦され賛成多数で信任された。

(2) 平成 26 年度事業計画

①総務

平成 26 年度事業年間計画について覚野総務担当理事（大阪南医療センター）より説明があった。

②広報

名簿・緊急連絡網、会誌、ホームページについて宮部広報担当理事（大阪南医療センター）より説明があった。

③各委員会

平成 26 年度の事業年間計画について、教育研修委員会は関本委員長（神戸医療センター）より、業務検討委員会は上野委員長（京都医療センター）よりそれぞれ説明があった。

(3) 平成 26 年度予算案

政道経理担当理事（大阪南医療センター）より平成 26 年度予算案について説明があった。

(4) 会則の変更

滋賀病院から東近江総合医療センターへの施設名称変更に伴い会則・細則第 8 条の変更が説明された。

(5) その他

現顧問が山崎新会長のため、新顧問として中多大阪医療センター薬剤科長が推薦された。

以上について審議の結果、賛成多数で承認された。

その他

部会の各代表者より活動目的、運営方針の紹介があった。

以 上

平成26年度近畿国立病院薬剤師会特別講演会報告

大阪南医療センター 高口 仁宏

演題：病院薬剤師の新たな役割 ～ファーマシューティカルケアから考える～

日時：平成26年1月11日（土）16:10～17:40

講師：聖マリアンナ医科大学病院 薬剤部長 増原 慶壮先生

ファーマシューティカルケアの理念に基づき、病院薬剤師が今後どのようにして職能を発揮すべきかについて、聖マリアンナ医科大学病院薬剤部で実際に取り組まれている事例をもとに講演していただきました。

はじめにファーマシューティカルケアの理念に基づいた薬剤師のビジョンとして、患者のQOLを改善するために、薬物治療に責任を持ち、チーム医療においては、薬物治療の専門家としての職能を発揮することをあげられました。病院薬剤師は、処方チェック、処方提案、TDMや薬剤師の育成などにより、適切な薬物治療を患者に提供することを主たる業務とする一方で、服薬指導（退院指導など）、持参薬の管理などを従たる業務と位置付けていることに驚きました。

薬剤師の育成では、教育・研修制度があり、主にジャーナルクラブについて紹介していただきました。臨床論文の科学的データに基づいて、薬物治療を提案することは重要であり、その際、データを批判的に吟味し、評価をすることが病院薬剤師の役割であることを教えていただきました。

現在、注力されている取組として、医薬品使用実態調査（MUE）、薬物治療共同管理（CDTM）、フォーミュラリーの作成についてお話をいただきました。チーム医療において、薬剤師がリーダーシップを発揮できる場がまだまだあり、多職種が職能を発揮する中で適切な薬物治療を患者に提供することが、今後の薬剤師の活動として重要であると感じました。

ファーマシューティカルケアの理念に基づき、チーム医療で、病院薬剤師が責任ある薬物治療を提供するためには、薬物治療の知識やコミュニケーションスキルなどが必要であることを、今回の講演を聞いて、再認識することができました。



第 18 回日本緩和医療学会学術大会に参加して

姫路医療センター 平岡 暖子

平成 25 年 6 月 21 日（金）から 6 月 22 日（土）の 2 日間、パシフィコ横浜で開催された第 18 回日本緩和医療学会学術大会を聴講しましたので、以下に報告させていただきます。

大会のメインテーマは「いきいきと生き、幸せに逝く」。がんをはじめ様々な苦痛や苦悩を伴った疾患の診断を受けた時から始まる身体的・精神的・社会的そしてスピリチュアルな苦痛を医療の面だけでなく生活の面からも優しく緩和し、“患者様とご家族のクオリティ・オブ・ライフを向上する”とともに、精神にも身体にも優しい医療を実現することを目指し、日々の業務での取り組みや研究報告がなされていました。

私は現在、緩和医療チームの一員として、病棟ラウンド等の業務に携わっています。ワークショップでは、消化器症状の緩和・呼吸器症状の緩和・苦痛緩和の為に鎮静・終末期がん患者の輸液療法といった各種ガイドラインについて聴講しました。ガイドラインのエビデンスレベル（結果の確かさ）と、推奨（治療によって得られる利益とそれによって生じる害・負担のバランス）を理解したうえで、患者様にとって必要な治療を行うことが大切であり、臨床現場ではガイドラインに「従う」のではなく、「上手く利用する」という言葉が印象に残りました。薬剤師として、何故この薬剤が選択されているのか、用法用量は適切であるか、他に推奨できる薬剤や対処方法があるか等、確認するためのツールとして各種ガイドラインを上手く利用したいと思いました。

緩和医療チームで活動する際には、身体的・精神的・社会的といった様々な問題が複雑に絡み合いながら治療が行われており、患者・家族・病棟スタッフ・緩和医療チームスタッフ間で考えのばらつきがあるケースも直面します。治療に対するベクトルとタイミングを合わせて介入していくことが非常に大切だと感じました。チームの一員として病棟薬剤師はもちろん病棟スタッフとも連携を図りながら患者・家族に向き合うことができればよいなと思っています。

最後に、特別企画としてゲスト出演された「ゲド戦記」や「コクリコ坂」でおなじみの歌手の手寫葵さんのヒーリングボイスに癒され・充実した 2 日間を過ごすことができました。

第 67 回国立病院総合医学会に参加して

兵庫中央病院 竹原 健次

平成 25 年 11 月 8 日（金）～11 月 9 日（土）に石川県の石川県立音楽堂・ホテル日航金沢・ホテル金沢・金沢市アートホールの 4 会場で第 67 回国立病院総合医学会が開催され、参加させていただきましたので報告いたします。

今回の学会のテーマは「Vita Nuova（新生）！国立医療 ～新たなる船出に向けて～」となっており、国立病院機構が新法人化（船出）に向けて願いを一つにして、機構 143 の病院ネットワークを活かした国立医療の新たなあるべき姿（新生）を議論する機会としてほしい。といったものでした。

その中で現在 CRC を兼任している私が特に興味を持ち聴講したのは「臨床研究・治験活性化 5 年計画 2012 アクションプラン」と NHO の今後の方向性です。「臨床研究・治験活性化 5 年計画 2012 アクションプラン」とは

1. 日本の国民に医療上必要な医薬品、医療機器を迅速に届ける
2. 日本発のシーズによるイノベーションの進展、実用化につなげる
3. 市販後の医薬品等の組み合わせにより、最適な治療法等を見出すためのエビデンスの構築を進める

上記 3 つの目標を達成するために行う明確な事項を定めたものです。そのアクションプランの 1 つに「国内における優良な治験ネットワークが 3 ネットワーク以上存在している。」というのがあります。

1 つのシンポジウムの中で厚生労働省医政局研究開発振興課の河野典厚氏が、「今年度名古屋医療センターが臨床研究中核病院整備事業の補助対象機関として選定されておりますが、これは名古屋医療センターだけで行うのではなく、名古屋医療センターが中心となって国立病院機構の病院全体の現存するネットワークを用いて治験・臨床研究に取り組んで欲しいという考えで選定されています。アクションプラン等に基づく重要な事項についてもすでに推進していただいている」とおっしゃっていました。これも臨床研究全体の活性化のための新たなあるべき姿のうちの 1 つなのかなと思いました。

まだまだ薬剤師としても CRC としても未熟な私ですが、今回この学会に参加させていただいたことにより国立病院機構の中で CRC として治験も含めた臨床研究において質の高いものを実施するために支援をできるようになりたいと思いました。

また、今回聴講のみだったのですが、次回はこのような場所で発表できるように頑張りたいと思います。

平成 25 年度 初級者臨床研究コーディネーター研修を受講して

姫路医療センター 小西 敦子

平成 25 年 6 月 17 日から 21 日までの 5 日間、国立病院機構本部で開催されました。この研修には治験業務に携わって 3 年未満の方が対象で、「『治験』『臨床研究』とは？」から始まり、関連する法律、CRC としての業務、国立病院機構での治験に対する取り組み、Global 試験や臨床研究・治験の最近の動向についての講義などあらゆる角度からの講義があり、自分の中での知識の整理ができたのはもちろんのこと、最新の知見も得られることができ、本当に有意義な研修でした。

また国、国立病院機構、依頼者、被験者の立場からの講義は、普段なかなか拝聴することがないため、大変勉強になりました。

CRC としての実際の業務、治験事務局業務、臨床検査科など現場の方々の講義は、具体的にわかりやすく、今後業務に携わっていく中で大変参考になると思いました。

現在、臨床研究・治験活性化 5 ヶ年計画 2012 が取り組まれており、過去 9 年間で踏まえた飛躍そして自立、さらには日本発の革新的な医薬品・医療機器等の創出をスローガンとして掲げていることを受け、国立病院機構の職員として、また治験主任としてどのように取り組んでいけばよいのか、という自分自身への問題提起にもなりました。

さらに、Global 治験に伴い「スピード」「品質」「パフォーマンスのデジタル化」など、世界各国との競争に打ち勝てるように結果を出していかなければならないし、国立病院機構としてのネットワークを最大限に活用し、先陣きって Global 試験を先導していかなければならないのだと痛感しました。

この 5 日間の講義で得られた多くの知識・情報を自分自身の中で理解し、業務の中でそれをいかにアウトプットできるかが鍵になると思われました。

また、参加者は日本全国から研修に参加されていました。私は、研修先の宿泊施設で北海道から参加されている看護師の方と同室になりました。毎日の研修、日々の業務、治験に関することなどをお互いに話していくうちに仲良くなっていきました。人との『輪』はこのように広がっていくことをしみじみと感じました。

現在、当院の治験管理室には CRC として薬剤師、看護師各 1 名が活躍しています。それに加えて様々な職種の方々の協力があって治験・臨床研究が実施されています。私自身、当院の治験管理室をますます活性化、発展させていけるよう本研修で学んだことを業務に活かしていこうと考えています。

第 40 回日本小児臨床薬理学会学術集会に参加して

神戸医療センター 木村 麻子

昨年 11 月 2 日・3 日に慶応義塾大学日吉キャンパスにて開催されました第 40 回日本小児臨床薬理学会学術集会に参加いたしました。

まずは、小児臨床薬理学会のご紹介を。小児臨床薬理学会は、「発達薬理学およびその関連領域の研究の進歩とその普及をはかり、小児の健康とその福祉に寄与すること」を精神に、昭和 49 年に発足し現在に至ります。学術集会は、年に一度、小児医療に関わる医師、薬剤師が一堂に会し、小児薬物療法の研究・診療・教育の成果を発表・討議するとともに、小児領域における臨床薬理学の最新知識と情報を交換・発信する場となっています。昨年のテーマは「小児適応の拡大に向けて」でした。小児の薬は適応外であることが多く、小児適応の拡大に向けていかに取り組むかがテーマとなっていました。

私は一昨年、昨年と 2 回目の参加となりました。一昨年は東京のホテルの一つの会場で講演も発表もランチョンセミナーも行われるというこじんまりとした(?)ものでしたが、昨年は第 3 会場まであり中継会場まである(一昨年と比べると)大きなものとなりました。というのは、平成 24 年度より小児臨床薬理学会認定・小児薬物療法認定薬剤師制度が始まり、その認定資格更新に学術集会出席が必須となったからです。(3 年間に一回以上の参加が必須です)そのため、今回は薬剤師向けの教育プログラムも組まれており、また、妊婦・授乳婦への薬物投与についてのシンポジウムも開催され、薬剤師として実際の業務に役立つ大変ためになるものでした。

この学会は、小児の分野において国内外で活躍される著名な医師や新進気鋭の医師などまさに現在の小児医療の話が聞け、また、医師と薬剤師が区別なく発表できる場であることが魅力だと思います。有意義な 2 日間を過ごし、ついでに慶応大学生気分でキャンパスを散策して帰ってきました。

今年は 10 月 3 日、4 日に大阪国際会議場で開催されますので、病棟活動で小児薬物療法に関わっている先生方は参加してみてもはいかがでしょうか。

地区会報告

姫路医療センター 水谷 伸一

兵庫南部地区

開催日時: 平成 25 年 11 月 12 日(火)19:00~21:00

開催場所: 明石市

参加人数: 姫路医療 (19 名) 神戸医療 (8 名) 兵庫青野原 (3 名)

合計 30 名 (会員 40 名) 参加率 75%

内 容

1. 新規採用、人事異動に伴う新会員紹介
2. 会員報告
 - ・兵庫青野原病院「レボカルニチン製剤の適正使用について」柴崎 憲行
 - ・姫路医療センター「姫路医療センターにおける相談内容の解析と今後の課題」
田中 麻理子
 - ・神戸医療センター「神戸医療センターの取り組み」
中内 崇夫
3. 平成 26 年度の地区会について
 - ・来年度の地区理事について
現在、兵庫南部地区の地区理事が任期 4 年目である。各施設の地区担当を選出後、理事会までに地区理事を決定する。
 - ・来年度の地区会開催場所について
地区会の開催場所について、各施設会員の意見を広く聴取するためにアンケートを実施し決定する。
 - ・来年度の地区会テーマについて (案)
地区会の開催場所を各施設 (病院) とすると施設見学も兼ねることが出来る。
引き続き、各施設間での病棟薬剤業務実施加算等について情報交換する。
4. 親睦会

以 上



病院薬剤師になって

姫路医療センター 松本 健吾

病院薬剤師として姫路医療センターに採用され、早くも 9 か月がたちました。初日から緊張の連続で、病院生活に慣れるのも業務の全体的な流れを把握するのも時間がかかりました。現在、調剤をはじめミキシングや病棟業務など幅広い薬剤師業務をさせていただき、優しい先輩方にご指導いただきながら恵まれた環境で日々過ごしています。

私は色々な職種と関わりながら仕事をしてみたいなと思い、病院薬剤師を志望しました。姫路医療センターでは 4 月下旬から病棟に上げていただき、薬剤科の外で医師・看護師をはじめ薬剤師以外の職種とも業務として接する機会が増えました。初めて担当病棟に上がった日、新人研修の期間を除けば勤務 3 週目であり、業務内容も院内採用薬も薬剤の知識も不安なままの状況でした。そして、ある看護師さんから「試してやるわ」と質問され、即答できず終わってしまいました。薬剤師として見ていただいたのに役立てず、これがきっかけで少しでも薬の内容や業務について覚えていかなければという緊張感が高まりました。しかし、何からどうしていけばいいかと焦る私に、先輩方からまずは目の前の業務を間違えず確実にするようにと指導していただきました。当たり前ではありますが、仕事を正確にこなせなければ何も任されることもなく、その先の業務として多職種の中の薬剤師はありません。まだまだ何事も精一杯な毎日ですが、確実な仕事をするよう日々を重ねていきたいと思います。

患者さんとの関わりの中では、自分が薬剤師なんだと意識させられる出来事がありました。入院中に受けもった患者さんで退院後に外来窓口や電話で「松本って薬剤師いる？」と呼んでいただいたり、「薬のことやから君に会って聞いたかったんやけど」と薬局の前で待っていらっしやった方に出会ったことです。特別その患者さん達の副作用を発見したり処方を提案したわけではありません。服薬指導や薬学的管理もまだまだ至らないことばかりであるものの、話の聞き方など私の何かが患者さんの中に残っていたのかもしれない。患者さんにとって私は 1 年目さんではなく薬剤師の 1 人として認識されているのだと改めて実感しました。

日々の業務の中で未だ緊張感が抜けることはありません。これを良い意味で捉えて少しでも進歩していくため、自分は薬剤師であるという意識を持ち、先輩方やその他医療スタッフ、そして患者さんから信用される薬剤師になれるよう励んでいきたいと思います。

病院薬剤師になって

神戸医療センター 加藤 淳子

私の出身は兵庫県で、神戸市内で六年間の大学生生活を過ごしました。今年の三月に国家試験によりやく合格したばかりであり、まだ学生気分の抜けないまま、病院薬剤師として神戸医療センター薬剤科で働き始めました。

四月～五月は調剤内規が覚えられなかったり、スタッフからの電話に戸惑ったり、院内で迷って薬剤科へ戻れなかったりとわからないことだらけでした。また一度教わったことを忘れてしまったり、覚え間違いをしたり、失敗しながらとにかく必死にこなしていきましました。初めての抗がん剤の無菌調製はとても怖くて心配で、持参薬確認はその数に驚きながら、一つずつ一生懸命乗り越えてきました。

六月～七月はようやく自分が何をしているのか理解しながら業務を行うことができるようになりました。それでもまだあやふやなことが多く不安でいっぱいの日々を過ごしていました。

八月になり調剤業務の不安も減り、採用医薬品の勉強などもできるようになった頃、同期の新人薬剤師が病棟に上がりはじめ、当直業務も始まりました。自分は病棟業務を行うことができるのか、一人で当直なんてできるのか、同期の薬剤師からどんどん置いていかれるのではないかと新たな不安が芽生え始めましたが、それでも焦ることなく自分に与えられた業務をきちんとこなしていくのみと心に決め、日々の業務に取り組んできました。

そして今、気がつけば調剤に関する内規は一通り覚え、あれだけ怖かった抗がん剤の無菌調製も一人でこなすことができるようになり、当直・日直も先輩に助けて頂きながらもなんとか半人前から少し脱出できたように思います。同時に、諸先生方の知識の深さや行っている業務の幅広さ、患者さんへの対応の技術の高さ、時間をいかに有効に活用しているかなどに気が付く様になり、私の描く病院薬剤師像もどんどん具体化してきています。

これからは病棟業務やオペ室などさらに臨床に近い現場での業務を行っていくことになります。焦らず着実に、そして一日でも早く先輩薬剤師のようになれるように色々な知識や技術を向上させ、一人でも多くの患者様の力になりたいと思います。今後とも宜しくご指導の程お願い致します。

病院薬剤師になって

兵庫中央病院 福井 千恵

兵庫中央病院で病院薬剤師として働くようになってから9ヶ月が経ちました。振り返ると「もうこんなに経ったのか」と思うほどこの9ヶ月間はあっという間に過ぎました。採用されたばかりの4月頃は右も左も分からず、医師や看護師からの問い合わせがあっても何を聞かれているのかさえ把握できないような状態でした。そんな中で経験豊かな薬剤師の先輩方から熱心に指導して頂いたおかげで、毎日バタバタしながらも日々業務をこなすことができるようになってきたと思います。

現在調剤業務、抗がん剤の調製、薬剤管理指導業務等に携わらせて頂いておりますが、実際に医療現場で働くことで薬剤師の責任の重さを感じるがあります。例えば自分の疑義照会によって処方内容が変更になった際、薬剤師による処方鑑査の重要性を強く感じます。同時に、自分の行為が少しでもリスクマネジメントに貢献できたのではという気持ちになり、身が引き締まる思いです。そしてこういった緊張感はモチベーションの向上に繋がっていくものだと感じています。

また、調剤室だけでなく病棟業務において患者さんと接する中でも、患者さんとコミュニケーションを取ることの重要性和難しさを肌で感じており、ただ薬の説明を伝えるだけでなく、精神的なサポートができるようになりたいと思っています。同時に、医師や看護師を含む医療従事者とコミュニケーションを図ることで情報を収集し、また薬剤師として医療従事者に対して積極的に副作用やその他の必要な情報を提供することによって、患者さんだけでなく医療従事者からも信頼される薬剤師になりたいと思います。そうなる為にはまだまだ知識も経験も足りませんが、毎日の業務のなかで焦らず確実に培っていきたいと考えます。

現在どの業務に関しても気が抜けず不安に思うことも多い状況ですが、入職した4月に比べ9ヶ月経った今の方が毎日充実していて、仕事をとてもやりがいがあると感じるようになりました。最近は日々の中でできることがひとつ一つ増えていくことに大きな喜びを感じます。「昨日までできなかったことが今日はできるようになった。なら今日できなかったことは明日できるように努力しよう。」と自分自身の成長に繋がられると考えています。今はただ「自分にできること」をもっともっと増やしていきたいと思っています。その知識と経験の積み重ねが「優れたジェネラリスト」に結びつくと思っています。

まだまだ未熟で迷惑をお掛けすることも多いと思いますが、1日も早く一人前の薬剤師になれるように日々努力していきますので、これからもご指導をお願いしたいと思います。

病院薬剤師になって

兵庫青野原病院 柴崎 憲行

私は平成25年3月30日に薬剤師国家試験の合格発表を受け、4月1日より薬剤師として働いています。それまでは6年制薬学教育を学び薬学生として大学生活を過ごしました。

では『薬剤師と薬学生違いは何なのだろうか。薬剤師になって得たものや変わったものは何なのか』を考えると、まず考え付くのは《責任》という言葉です。私が大学5年生時、実務実習への抱負や意気込みを病院への手紙にして書くことありました。その中の一部に『自分の行動に責任をもって実習に望みたい』という内容を書いたところ、手紙の内容を確認した先生から、「実際、何かあったとき責任とれないだろ」と修正するように言われ悔しさを感じたことがありました。しかし、今病院の薬局内では科長から仕事を与えられたときに「これは柴崎君に任せるから、責任感をもってやってくれ」とよく言われます。あのときは使えなかった《責任》という言葉は、今は人から言ってもらえます。あのときの悔しさを胸にこれからは仕事に責任をもち、また人の責任も共有できるような薬剤師になればと思います。

これ以外にも、薬剤師として仕事ができるようになったことや医師、看護師、他の医療関係者と話す機会が増えたことなど様々なものが変わりました。

しかし、変化すると思っていたものの中にも変化しないものもありました。それは学ぶということです。去年、国家試験の勉強中は今後これ位勉強することはないと思っていました。むしろ、それを動機に頑張っていたこともありました。しかし、そう甘いものでもありませんでした。何かの発表前には関連の資料を読み、原稿を作る。何かを聞かれれば、それについて調べて答える。今もなお学ぶことが多いです。

国家試験というあの大きな山を乗り越えた後下り坂ではなく、またさらに険しく高い山でした。しかし、その山は今までと同じ登り方では登れませんでした。

国家試験は、参考書や問題集に書いてあることを試験の選択肢から選ばば良いだけでしたが、今は自分の持っている知識を患者さんに分かりやすく教える、他の医療従事者が必要としている情報を教えるということが重要で、どこかに書いてある文章をそのまま伝えれば良いというものではありません。相手が何を必要としているのか、相手に何が必要なのかを自分で考え、答えなければなりません。

まだまだ登り始めたところですが、この山は患者さんや医療従事者と接し、疑問を抱き自ら調べることでしか登れないような気がします。

この山頂があるかどうかはわからない山ですが、ゆくゆくは自分にあつた山を探し、自分しか登れない山を見つけることが出来ればと思います。そして、次登る人に肩を貸したり、道をきれいにしたり、登りやすいようにしたいと思います。

最後に、この題名の『薬剤師になって』を使ってまとめるなら、『薬剤師になって、良かった』としたいと思います。

趣味のページ
～世界遺産にお邪魔します～

近畿中央胸部疾患センター 水津 智樹

「富士山に登りたい。」、そう思った私は一昨年より登山を始めました。マラソンを始めた時は早々に挫折した私ですが、登山は今のところ続けられています（なにより投資した金額が違います！）。自由に自分のペースで行程を進められ用意した食事をとったり景色を楽しんだりすることに楽しみを感じます☆

一昨年から去年の初夏にかけて、近隣の山で何度かトレーニングを積み、7月に目標であった富士登山へチャレンジしてきました。前月の6月に世界文化遺産へ登録されたということもあり、登山口から頂上までものすごい数の人でした！！



夏とはいえ標高が高いため気温は低く、山の天候は不安定。雨も降ったりやんだりで合羽を着ては脱いでの繰り返しでした。八合目あたりからは山道も急になり、息を切らしながら登ります。しかし高地の酸素濃度に体を順応させないといけないため、簡単に酸素を吸入させてはもらえません。

やっとの思いで登頂し、食堂で腹ごしらえに豚汁を頂きました。値段は地上の豚汁に比べるとかなりお高いものでしたが、これがもうほんと～にうまい！豚肉のうまみが四肢にしみわたっていくのを感じながら、「ああ～頑張ってた～涙」と、ぺろりと完食。

休憩時間は山頂にある神社を参拝したり、郵便局で手紙を書いたりしながら過ごしたのですが、その後の下山中に一緒に登っている相方が下山途中で高山病にかかってしまいました！食事も摂れず、頭痛と吐き気に苛まれていました。ただ休憩をこまめに入れ、標高が低くなってくるにつれ、症状も軽快していったようなのでどうにか一安心。

下山後は近隣の露天風呂につかりながら富士山を眺め、「あそこまで登ってきたんだなあ...」と思うとじわじわと達成感がこみ上げてきました。そして風呂上りにコーヒー牛乳、ビール、から揚げ...もちろんです。



しんどい思いをするのは嫌いなのですが、その後に待っている自分へのご褒美があるからやめられません。今後も体力作りもかねて近郊の山々に登っていくつもりです。

それでは私の話は終わりにさせていただきます、姫路医療センターの金川先生にバトンを渡したいと思います。

編集後記

- ♪ 新年あけましておめでとうございます。昨年中は多くの先生方から原稿執筆にご協力を頂き誠にありがとうございました。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。
- ♪ 今年は、午年（うまどし）です。古来より馬は縁起がよい動物と言われており、中でも「左馬（ひだりうま）」は、「うま」を逆さから読んだ「まう」が、祝宴での「舞い」を連想させることから、祝福の象徴とされています。皆様にとって、福の「まう」素晴らしい一年になりますことをお祈り申し上げます。
- ♪ 2月にはソチ冬季オリンピック、6月にはサッカー・FIFA ワールドカップ・・・日本人選手の活躍の期待されるスポーツイベントが目白押しです。寝不足には気をつけながら、メダル獲得の瞬間をリアルタイムで観戦したいものですね。
- ♪ 本年は診療報酬改定の年です。消費税も 8%に引き上げられます。増税前の駆け込み需要もあるのか景気は上向き傾向だとか・・・皆様は最近、何か大きな買い物、されましたか。
- ♪ 今年最初の会誌です。今月号では新会長、新副会長の就任挨拶、薬剤師会総会報告、総会特別講演報告、学会報告など、読み応えのある内容となっております。今月も最後までご熟読ください。

(A.N)

近畿国立病院薬剤師会ホームページ <http://www.kinki-snhp.jp/>

近畿国立病院薬剤師会会誌 第三十七号 平成 26 年 1 月発行

発行元 近畿国立病院薬剤師会事務局

大阪市中央区法円坂 2-1-14

(独立行政法人国立病院機構大阪医療センター薬剤科内)

発行人 会長 山崎 邦夫 (大阪南医療)

編集 広報担当理事 宮部 貴識 (大阪南医療)

広報委員 本田 富得 (大阪南医療) 川端 一功 (大阪医療)

中西 彩子 (奈良医療) 朴井 三矢 (京都医療)

小西 大輔 (大阪医療) 岩槻 瑠美 (神戸医療)

奥田 直之 (大阪医療) 田中 絵理 (大阪南医療)